

(様式1) 実践事例

学校名	本宮市立白沢中学校	校長名	星 信男		
住 所	本宮市白岩字柳内835番地	児童生徒数	238名	学級数	11
T E L	0243-44-2009	ホームページアドレス			

## 個別学習をより充実させる指導の工夫

### 1 少人数指導の計画等

#### (1) 目標と方針

- ① 学校全体で、各種検査の結果を分析・共有し、生徒一人一人の学習スタイル等を全教師で共通理解する。学習相談を全学年で意図的計画的に行ったり、授業の中で一人一人に応じた学習支援を全教師で行ったりする。
- ② 全校体制で、全ての教科に学び合い活動をより多く取り入れる。生徒一人一人に合った学習方法で、主体的に学ぶ授業を行う。学び合いの中では、グループ学習の良さを生かして自分の意見や考えを積極的に表現できるようにする。教師は、生徒の発言や思考を取り上げ、他の生徒や全体につなげたり、良い学びを称賛したりする。
- ③ 数学科・英語科では、特にティームティーチングによる授業を実践することで、生徒一人一人の実態（個人差）に合った学習支援を全学年で行う。

### 2 実践の概要

#### (1) 学習相談の充実

一人一人の生徒の知能検査やhyper-QUの結果を分析して学校全体で共通理解を図った。学期に1回の教育相談を実施し、学習面での頑張りを称賛し、一人一人に合った学習方法を助言した。生徒は、自分の学習スタイルや学習方法等を普段意識していないの



で、改めて驚いたり納得したりして、学習意欲の向上につながった。

#### (2) 授業の充実

次の3つの手立てを用いて日々の授業実践を行っている。手立て1「生徒が自発的に解決したいと思う課題の提示」、手立て2「課題解決のための協働的な学習」、手立て3「目標を振り返る評価の工夫」である。授業研究会を校内で実施し、教師全員で共通理解を図った。

少人数学級だからこそ生徒一人一人に教師の目が行き届き、教師は学び合いをコーディネートしやすくなっている。具体的には、生徒のつぶやきやワークシートからその生徒の学習のつまづきを把握し支援したり、生徒の発言を比較し類型化して全体に広めたり深めたりした。また、グループ活動が活性化するように解

決の視点を与えたり、他の班の意見を全体で共有することで、課題解決できるようにした。その結果、「解決できそう」という見通しや「解決してみたい」という生徒の意欲を高めることにつながった。また、生徒同士の発言の機会が増え、コミュニケーションがより一層活発になった。

### (3) ティームティーチングの充実

数学科と英語科ではティームティーチングを実施している。英語科では、ALT とともに3人で授業を行うこともある。生徒の実態（個人差）に対する共通理解を図りながら実施した。具体的には、知識・技能等の習熟度、学習速度、理解度などの量的な個人差、興味・関心、学習意欲、学習スタイル等の質的な個人差を共通理解した。教師が指導する生徒をあらかじめ分担して、多くの生徒の発言を生かしながら、生徒のつまづきを予想して支援したり、学習スタイル等に応じて支援したりできるようにした。生徒は、他の生徒と共に協働的に学んでいるという実感を持ち、達成感や充実感に結びついていたようだった。



## 3 実践の成果と課題

- 学校全体で生徒一人一人の学習速度、理解度、学習スタイル等を共通理解して、教育相談や授業の充実を図ったので、生徒の学習意欲が高くなり、授業中に意欲的に自分の考えを発表する生徒が増えてきた。また、教師の役割を明確にし、一人一人の実態に応じたティームティーチングにより、生徒は達成感や充実感をもつようになった。また、自分の学習スタイルを生かした学習方法により家庭学習を工夫する生徒も見られるようになった。全体的に、学習に対して興味や関心が高まり、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- 学び合いを通して、自己表現することができる生徒が増加した。また、わからないことをそのままにせず、教師や友達にたずねて疑問を解決する様子が多くみられた。生徒同士のコミュニケーションが増え、多様な視点から学ぶ姿が見られるようになった。
- 学習形態や指導方法をさらに研究し、学習に対する生徒の興味や関心を引き出し、教師が生徒に関わり生徒の発言を引き出し生かし広げるという意識を大切にしながら、一人一人が主体的に学べる授業実践を継続したい。